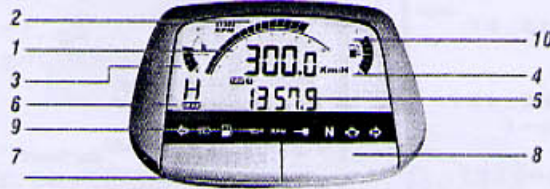


# ACEWELL® ATV/Motorcycle Computer

## 多機能デジタルメーター ACE-5XXX 取扱説明書

この度は弊社製品をお求め頂きまして誠にありがとうございます。この取扱説明書はACE-5000シリーズ多機能デジタルメーター用としてかかれております。ACE-5000シリーズにはACE-51XX/52XX, ACE-55XX/56XXとACE-57XX/58XXがあります。「\*」表示部分はACE-55XX/56XX, ACE-57XX/58XX向けの説明となり、「\*\*」表示部分はACE-57XX/58XX向けの説明となります。モデルによりLEDインジケータなどが異なるため、本説明書中写真のインジケータなどがとお手元の製品と異なっている場合がございます。



### 表示パネル説明

- |                  |              |
|------------------|--------------|
| 1. タコメーター目盛      | 6. ギアインジケータ  |
| 2. タコメーター表示      | 7. RESET ボタン |
| 3. 水(油)温計表示*     | 8. MODE ボタン  |
| 4. 1行目: スピードメーター | 9. LEDインジケータ |
| 5. 2行目: その他機能表示  | 10. 燃料計表示    |

### 特長

- ディスプレイはタコメーター・スピードメーター・ギアインジケータ・燃料計・バークラフ水(油)温\*と他1機能の値を同時に表示が可能。
- 内蔵ギアインジケータは現在速度と回転数からギアポジションを計算し、表示します。
- バックライトがメインキーと連動せず外部制御となっているモデルもあります。
- バークラフタコメーターの最大表示回転数はエンジン特性に合わせて10,000rpmまたは20,000rpmに切替が可能。
- オドメーターは30km (18.6mile) 未満の場合に限り、ユーザーによる任意値への変更が可能。
- \*距離タイム・加減速タイム計測機能を装備。
- \*\* 99ラップの計測が可能なラップタイマー機能、オプションで
- リモートコントロールスイッチを装着可能。
- \*\*外気温センサーを内蔵。
- 6~9個のLEDインジケータランプを内蔵。
- バルスタイプギアボックス速度センサーに対応する高速プロセッサを採用。
- タイヤ外周長は1~3999mmの間で設定が可能。
- フューエルセンサーの満タン時・残量0時の抵抗値を0~990オームの間でそれぞれ任意に設定可能。燃料計OFF機能も装備。
- 11.0~14.9Vの間で警告電圧が任意に設定できる電圧警告機能。
- 小数点以下の表示をする/しないが選択可能なスピードメーター。
- 取り付けステー・点火信号センサー線・速度センサー・温度センサー\*・ワイヤーハーネス・リモートコントロールスイッチ\*\*を標準添付。
- 優れた防水・耐震・耐ノイズ性能。
- \*\*オプションの磁気センサー・赤外線センサーにてラップタイムの自動計測が可能。

### 仕様

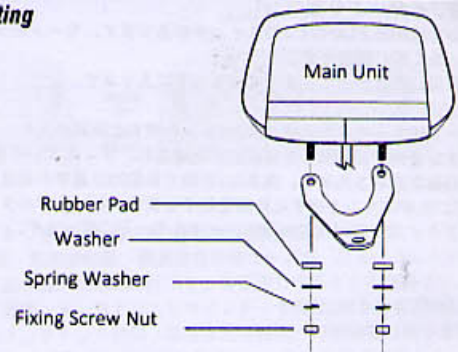
Functions	Symbol	Specifications
タコメーター		500-10,000 rpmまたは1,000-20,000rpm
スピードメーター		Km/h or MPH 2.4-399.9 km/h (248.5 MPH)
トリップメーター1&2	TRIP 1&2	0.0-999.99 KM/Miles
トリップメーター3	TRIP 3	0.0-999.99 KM/Miles
オドメーター	ODO	0.0 - 999,999 KM, 0.0-621,387 Miles
時計		0:00 - 11H59'59"/23H59'59"
デジタルタコメーター	rpm	10-19,990 rpm, 10rpm刻み
水油温計*		+25°C-180°C / 77°F-356°F
外気温計**		-20°C-60°C / -4°F-140°F

平均速度表示	AVG SPD	2.4-399.9 KM/h (248.5 MPH)
走行時間計	RT	0-99H59'59"
総走行時間計	TT	0-9999H59'
総エンジン運転時間		0-9999H59'
電圧計*		8.0-18.0 Volt
メンテナンスリマインダー		0-9999時間 / 0-9999km (6213Miles)
最高速度表示	MAX SPD	2.4-399.9 Km/h (248.5 MPH)
最高回転数表示	MAX RPM	10-19,990 rpm, 10rpm刻み
最高温度表示*	MAX	+25° C-180° C / 77° F-356° F
ギアインジケータ		N, R, 1, 2, ...8 速 またはOFFモード
距離タイム計測*	Trip RT	0-1/4 mile, 0-100M, 0-400M
加速タイム計測*	SPD RT	0-100km/h, 50-70mph
減速タイム計測*	d SPD RT	100kmh-0kmh
バークラフ燃料計		10Q-999Qで任意設定またはOFFモード
バークラフ水油温計*		1-7 セグメントバークラフ表示
ラップタイマー**		最高99ラップ

- 電源電圧 DC 12V  
 エンジン回転信号 CDI またはイグニッションコイル信号  
 速度センサー リードスイッチ / 2線式ホールセンサー / メーターワイヤーセンサー (付属)  
 設定可能タイヤ外周長 1mm-3999mm (1mm 単位)  
 速度パルス分周器 1-199 分周  
 パルス分周器の最高周波数 7K Hz  
 サイズ 130.1mm x 82.8mm x 27.0 mm  
 温度センサー\* サーモセンサー  
 タップタイマーセンサー\*\* 押しボタン及びオプションの磁気センサー・赤外線センサー

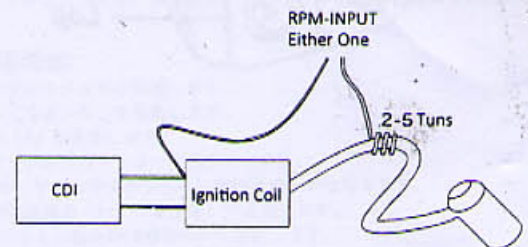
### 取り付け

#### Main Unit Mounting



#### エンジン回転信号センサー線: 回転信号入力、いずれか

1. ブラグコードからの信号強度は車両により異なります。
2. ブラグコードに2~5回巻きつけます。巻き数を増やすと信号は強力になり、減らすと信号は弱くなります。適正な強度になるよう巻き数で調整します。
3. 本品の回転信号入力回路はほとんどの車両に適合するように設計されていますが、一部の車両では信号が強すぎて動作が不安定になることがあります。その時は付属の1MΩ抵抗をセンサー線に直列に接続します。



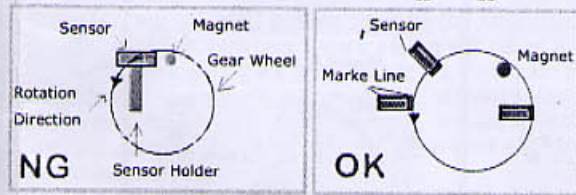
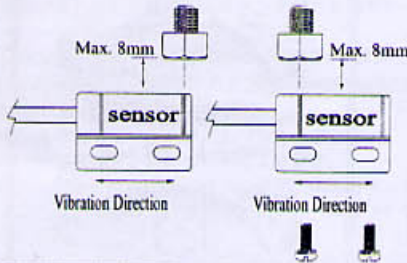


## 速度センサーの取り付け:

ACEWELLでは取り付ける車両に合わせた数種類の速度センサーをご用意しています。

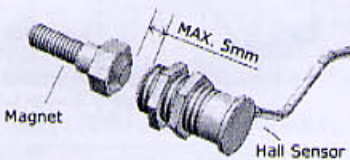
### マグネットセンサーセット (別売):

1. このセンサーはオートバイ用に最も汎用性の高いセンサーです。ホイールの回転する部分 (一般的にはブレーキディスク固定ボルト) に、マグネットを装着します。
2. センサーに記されている位置決め線の中心をマグネットが通過するようにセンサーの取り付け位置を決めてください。
3. センサーは振動方向と垂直に取り付けます。振動方向と平行にセンサーを取り付けることは車両の振動により不具合の原因となります。
4. マグネットとセンサーの間の隙間が8mm以内であることを確かめてください。



### ホールセンサー (日本未発売):

1. オプションのセンサーホルダーを併用してATVのリアホイールやオートバイのフロント足回りに取り付ける汎用センサーです。
2. ホイールの回転する部分で、センサーの検知面を通過できる位置にマグネットを取り付けます。
3. センサーの側面 (検知面) に磁石の中心が通過するようにセンサーの取り付け位置を決めてください。
4. マグネットとセンサーの間の隙間が5mm以内であることを確かめてください。



### メーターワイヤーセンサー (附属品):

純正のアナログ式メーターと交換することでメーターワイヤーの回転を電気信号に変換するセンサーです。

### 温度センサーおよびセンサーアダプター:

1. セットには水温センサーが付属しています。センサーを適切な位置へ簡単に取り付けするために冷却水ホースに割り込ませるセンサーアダプターをオプションで用意しています。
2. センサーアダプターは、切断した冷却水ホースの間にアダプターを割りこませ、付属のクランプで確実に固定します。
3. アダプターへセンサーを締め付けて固定します。
4. サーモスタットが開いてから冷却水を補充し、十分にエア抜きを行ってください。

### ワイヤードリモコンの取り付け:

1. リモコン取り付けステーをハンドルバーに固定します。
2. ステーには3箇所の取り付け穴がありますので、適した場所へ取り付けます。
3. リモコンの配線を本体カプラーに接続します。

## 機能

### BAR RPM: バーグラフタコメーター

バーグラフタコメーターは10,000rpm及び20,000rpmスケールの切替式です。

### Km/H or MPH: スピードメーター

1. フルスケール399.9km/h (マイル表示では248.5M/h) で速度を表示します。
2. 速度パルスの最高入力周波数は7KHzです。
3. 速度パルス分周器を使用した場合、表示可能最高速度が399.9 Km/h以下となる場合があります。たとえば、分周器の設定を105に、タイヤ周長の設定を1277mmにした場合、表示可能最高速度は250Km/hとなります。

### RPM: Digital Tachometer

1. フルスケール19,900rpmでエンジン回転数を数字で表示します。20,000rpm以上の時には19,999rpmと表示されます。
2. エンジン回転信号はCDIまたはプラグコードのいずれかから取得します。

### : シフトワーニング機能

1. 任意に設定したエンジン回転数でシフトワーニング警告LEDを点滅させ、ギアチェンジのタイミングやオーバーレブを知らせます。
2. 設定回転数を超えている間は、警告LEDが点滅し続けます。

### MAX RPM: 最高回転数表示

前回りセット操作を行った以降の最高速度を表示します。

### MAX SPD: 最高速度表示

前回りセット操作を行った以降の最高速度を表示します。

### AVG SPD: 平均速度表示

前回りセット操作を行った以降の平均速度を表示します。

表示値はTRIP ÷ RTで計算された値です。

### TRIP 1/2: トリップメーター 1・2

前回りセット操作を行った以降の走行距離を表示します。

### TRIP 12: トリップメーター 12

1. 燃料残警告LEDが点灯してからの走行距離を自動的に積算します。
2. 燃料を補給し、油量が警告残量を超えると自動的に0に戻ります。

### ODO: オドメーター

1. メーター使用開始からの総走行距離を表示します。
2. 総走行距離30km未満の場合に限り、任意値に変更が可能です。任意値として30km以上の値に設定した場合、または総走行距離が30kmを超えた場合、その後一切の変更は出来なくなります。

### RT: ライディングタイム

1. 前回りセット操作を行った以降の走行時間を表示します。
2. 走行を開始すると自動的に積算を開始します。

### TT: トータルタイム

1. メーター使用開始からの総走行時間を表示します。
2. トータルタイムはリセットできません。

### HRT: アワーメーター

1. 前回りセット操作を行った以降のエンジン運転時間を表示します。
2. エンジンを開始すると自動的に積算を開始します。
3. アワーメーターはリセットできません。

### ⌚: 時計

現在の時刻を12時間制または24時間制で表示します。

### 📊: バーグラフ水油温計\* 温度計入力1:

1. 8段階のバーグラフで水(油)温を表示します。
2. 下から4番目のバーが、設定した警告温度の-15°Cで点灯するように自動セットされます。バー1つは15°Cを表します。
3. 設定温度を超えると表示が点滅します。

### 📊: デジタル水油温計\*

1. 数字で水(油)温を表示します。ただし、温度が40°Cより低い場合、-L°Cを表示します。また、温度が180°Cより高い場合、-H°Cを表示します。
2. 設定された警告温度を超えると温度計の数字が点滅します。

### 🌡️: 外気温計\*\*

外気温を -20°C (-4F) ~ +60°C (+140F) で表示します。

### 📈: 最高温度表示\*

前回りセット操作を行った以降の最高温度を表示します。

### 🔧: メンテナンスリマインダー

1. 設定されたメンテナンス間隔(距離または時間)の残り(距離または時間)をカウントダウン表示します。
2. 残りの距離または時間が「0」になると「🔧」アイコンが表示され、メンテナンス時期の到来を知らせます。
3. メンテナンス後、RESETボタンを長押しすると、再び設定された距離または時間よりカウントダウンを開始します。



## ☑️: デジタル電圧計

1. 車両の電源電圧を数字でリアルタイムに表示します。

## ☑️: ギアインジケータ

1. まず、N入力線をニュートラルスイッチに接続します。
2. 内蔵ギアインジケータは現在速度と回転数からギアポジションを計算し、表示します。
3. ギアインジケータを使用する前には、学習操作が必要です。

## TRIP RT: 距離タイム計測

1. 測定できるタイムは0~100mまたは0~400m加速タイムです。
2. 動き出すと自動的に計測を開始し、設定した距離まで走行した時点で自動的に停止します。

## SPD RT 1: 加速タイム計測

1. 測定できるタイムは0~100Km/h加速タイムです。
2. 動き出すと自動的に計測を開始し、速度が100Km/hに達した時点で自動的に停止します。

## SPD RT 2: 減速タイム計測

1. 測定できるタイムは100~0Km/h減速タイムです。
2. 速度が100Km/hを切ると自動的に計測を開始し、車両が停止した2秒後に自動的に停止します。結果の表示は2秒減算された値が表示されます。

## SCAN: オートスキャン

1. 2行目の液晶表示を5秒ごとに自動的に切り替え、順次表示する機能です。
2. この機能をOFFにすると表示をマニュアル操作で選ぶことができます。

## ☑️: バーグラフ燃料計

1. 8段階のバーグラフで燃料を表示します。
2. 燃料計を使用する際には、フューエルセンサーの抵抗値(満タン時および残量0時)を10~990オームの間でそれぞれ設定する必要があります。

Bars	100Ω	250Ω	510Ω	-100Ω	-250Ω	-510Ω
7	0-10	0-25	0-50	100-90	250-230	510-460
6	11-20	26-50	51-100	89-75	229-200	459-380
5	21-35	51-85	101-180	74-60	199-150	379-300
4	36-45	86-110	181-230	59-45	149-110	299-230
3	46-60	111-150	231-300	44-35	109-85	229-180
2	61-75	151-200	301-380	34-20	84-50	179-100
1	76-90	201-230	381-460	19-10	49-25	99-50
0-Flash	91-100	231-250	461-510	9-0	24-0	49-0

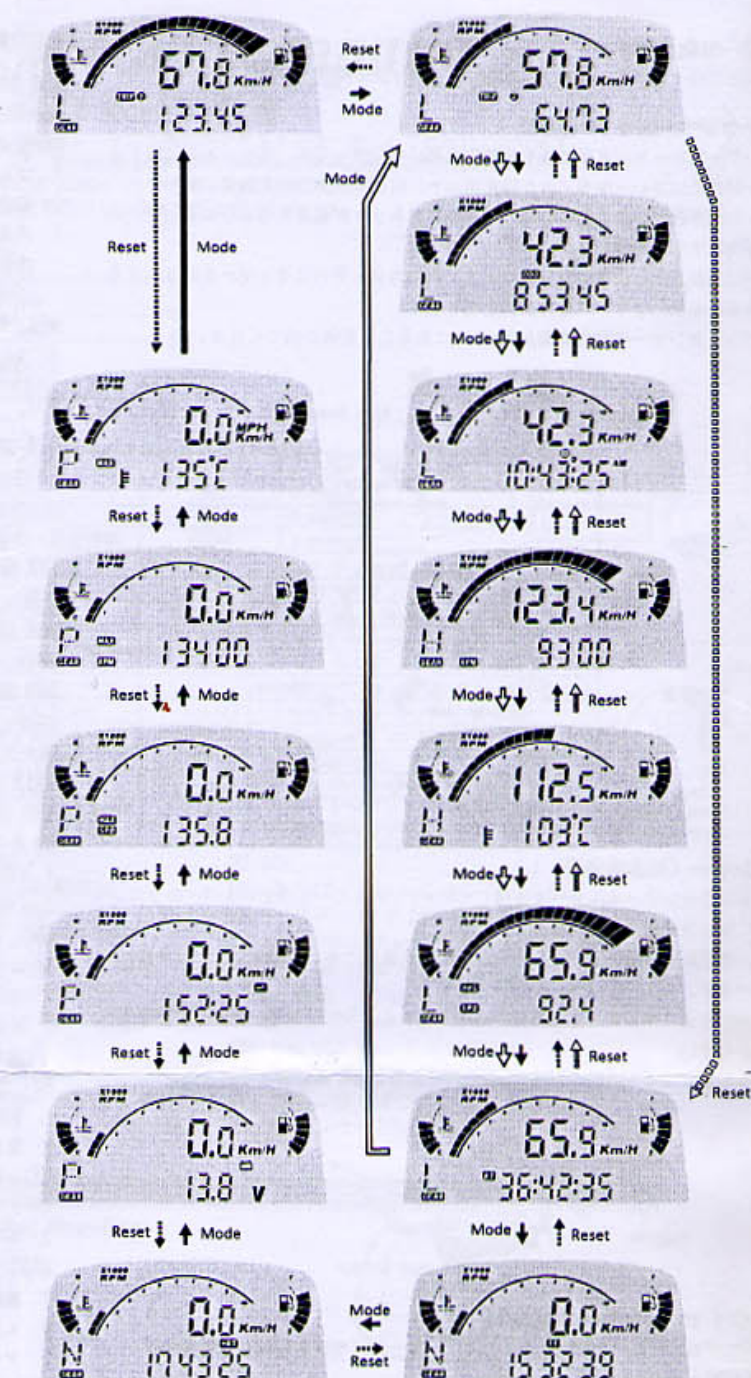
## LAP\*\*: ラップタイマー

1. 最大99ラップ分の記録が出来ます。
2. この機能はワイヤードリモコンで操作し、磁気センサーまたは赤外線センサーを使用することで自動計測が可能となります。

## ボタン操作

### MODE ボタン

1. 速度パルスが入力されていないときは、MODEボタンを押すごとに機能が「1」の順番に表示されます。TRIP1-TRIP2- (TRIP12) - 000 - 時計 - タコ - 1 - 2 - 平均速度 - RT - TT - HRT - 1 - 2 - 最高速度 - 最高回転数 - 最高温度 - TRIP1
2. 速度パルスが入力されているときは、MODEボタンを押すごとに機能が「2」の順番に表示されます。



### RESET ボタン

1. 短く押した場合、MODEボタンを押した時と反対周りに機能が表示されます。
  2. TRIP1、TRIP2、最高速度、最高回転数、最高温度の各モードで、リセットしたい数値が表示されている状態の時、2秒間RESETボタンを長押しするとその数値を0にリセットすることが出来ます。メンテナンスリマインダーでRESETボタンを2秒間長押しすると設定されたメンテナンス間隔(距離または時間)の初期値に戻ります。
  3. TRIP1、平均速度、ライディングタイムはいずれかをリセットした時点で残りの2機能も同時にリセットされます。
- オドメーター、時計、総エンジン運転時間および総走行時間はリセットできません。

### シフトワーニング回転数設定方法

1. MODEボタンを押してデジタルタコメーターを表示させます。そしてスロットルを開け、警告させたい回転数までエンジン回転数を上げます。
2. RESETボタンを押すとその時のエンジン回転数が警告回転数としてセットされます。
3. 以降、設定した回転数までエンジン回転が上昇するとバーグラフタコメーターと警告LEDが点滅動作します。
4. 再設定を行う場合は、デジタルタコメーターを表示させた状態でRESETボタンを2秒長押しします。

### ギアインジケータ学習操作:

1. 灰色の配線をニュートラルスイッチと接続します。
2. ギアをニュートラルにしてエンジンを始動します。
3. ギアインジケータは「N」を表示します。
4. MODEボタンを押してデジタルタコメーターを表示させます。
5. MODEボタンを2秒間長押しするとギアポジション数設定モードになります。
6. ギアインジケータは初期値の「6」(6段変速)で点滅します。
7. RESETボタンでギアポジション数を4~8速の中から選択します。「0」を選ぶとギアインジケータ機能をOFFすることが出来ます。



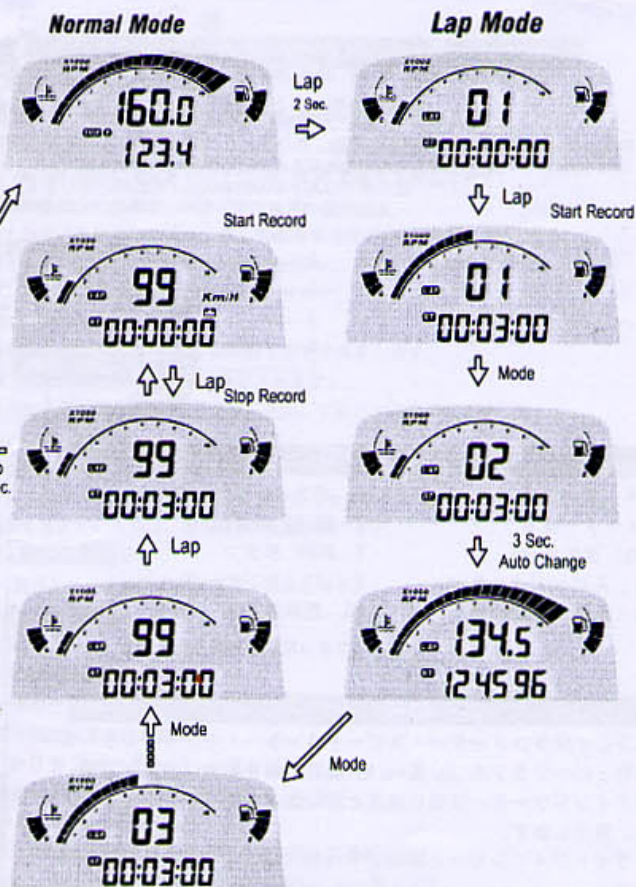
8. 「0」を設定した場合はMODEボタンを押して、その設定を記憶させ、学習操作は終了となります。
9. 4\*8を選んだ場合、MODEボタンを押すとギア比の学習モードに入ります。
10. ギアインジケーターに「1」が点滅します。ギアを1速に入れ、車両を発進させエンジン回転数を2000~4000rpmの間に調整します。
11. 回転数を一定に保ち、約5秒するとギアインジケーターに「-」が点滅します。これで1速のギア比が学習されました。
12. MODEボタンを押すと1速のギア比が記憶され、2速の学習に移ります。
13. ギアインジケーターに「2」が点滅します。ギアを2速に入れ、車両を発進させエンジン回転数を2000~4000rpmの間に調整します。
14. 回転数を一定に保ち、約5秒するとギアインジケーターに「-」が点滅します。これで1速のギア比が学習されました。
15. MODEボタンを押すと2速のギア比が記憶され、次の学習に移ります。
16. 上の11.~14.の学習操作を繰り返し行い、全てのギアのギア比を学習させます。全てのギアの学習操作が終わった状態でMODEボタンを押すと通常モード(デジタルタコメーター)に戻ります。
17. 学習したギア比を保存しないですべて終了するにはMODEボタンを2秒間押しします。

**\*距離タイム計測(1-100/400m)・加速タイム計測(0-100km/h)・減速タイム計測(100-0km/h) 設定操作:**

1. MODEまたはRESETボタンを押してトータルタイム(TT)を表示します。この状態でMODEボタンを2秒間押しすると設定モードに入ります。
2. 液晶に「SELECT」表示と「TRIP RT」が点滅表示します。MODEボタンを押すたびに「SPD RT 1(加速タイム)」「SPD RT 2(減速タイム)」「TRIP RT(距離タイム)」と測定モードが変わります。
3. 「TRIP RT」表示の時にRESETボタンを押すと距離タイム測定モードに入ります。画面上に「100(0~100m)」が現れ、MODEボタンを押すたびに「400(0~400m)」と切り替わります。この状態でRESETボタンを押すと画面表示が「00:00:00」の点滅表示となり、測定準備が出来たこと示します。車両が動き出すと自動的に計測を開始し、設定距離を走り終えたところで自動停止します。結果確認後RESETボタンを押すと表示が「00:00:00」に戻り新たな計測が可能です。また確認後、MODEボタンを押すと2.の画面に、またMODEボタンを2秒間押しすると測定モードを抜け通常のトータルタイム表示に戻ります。
4. 「SPD RT 1」表示の時にRESETボタンを押すと加速タイム測定モードに入ります。画面上に「0-100(0~100km/h)」が現れます。この状態でRESETボタンを押すと画面表示が「00:00:00」の点滅表示となり、測定準備が出来たこと示します。車両が動き出すと自動的に計測を開始し、100km/hに到達したところで自動停止します。結果確認後RESETボタンを押すと表示が「00:00:00」に戻り新たな計測が可能です。また確認後、MODEボタンを押すと2.の画面に、またMODEボタンを2秒間押しすると測定モードを抜け通常のトータルタイム表示に戻ります。
5. 「SPD RT 2」表示の時にRESETボタンを押すと減速タイム測定モードに入ります。画面上に「100-0(100~0km/h)」が現れます。この状態でRESETボタンを押すと画面表示が「00:00:00」の点滅表示となり、測定準備が出来たこと示します。この状態で車両を100km/h以上に加速します。その後、車両の速度が100km/hを切ると自動的に計測を開始し、車両停止2秒後に計測を自動停止します。測定値は自動的に2秒減算され、表示されます。結果確認後RESETボタンを押すと表示が「00:00:00」に戻り新たな計測が可能です。また確認後、MODEボタンを押すと2.の画面に、またMODEボタンを2秒間押しすると測定モードを抜け通常のトータルタイム表示に戻ります。

**\*\*ラップタイマー用ワイヤードリモコン:**

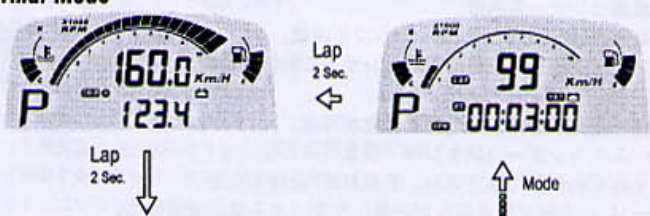
1. ワイヤードリモコンにはMODEとLAPの2つのスイッチがあります。モードボタンは本体のMODEボタンと全く同じ機能です。
2. LAPボタンを2秒間押しするとラップタイマーモードに入ります。
3. ラップ計測の操作方法:
4. ラップタイマーモードに入っている状態でLAPボタンを押すと計測がスタートします。周回ごとにMODEボタンを押すと時間と平均速度が記録され、ディスプレイの速度表示部分に現在周回数が表示されます。表示は3秒間で自動的に通常の速度表示に戻ります。最終周回でLAPボタンを押すと計測を終了します。2秒間LAPボタンを長押しするとラップタイマーモードを抜けてノーマルモードに戻ります。



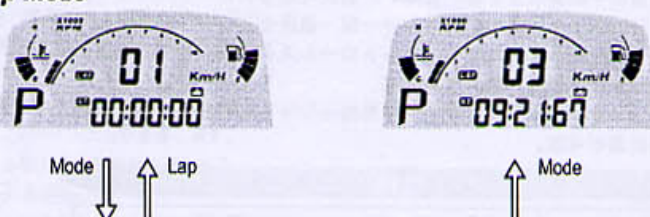
**\*\*ラップ表示の操作方法:**

1. ラップタイマーモードに入っている状態でMODEボタンを押すと1周目のデータが表示されます。ディスプレイにはラップ数とその周回の計測時間が表示されます。
2. LAPボタンを押すと、その周回のラップタイムと平均速度の表示が切り替わります。MODEボタンを押すと表示は次の周回のデータに移動します。
3. LAPボタンを2秒間押しするとラップタイマーモードを抜け、ノーマルモードへ戻ります。

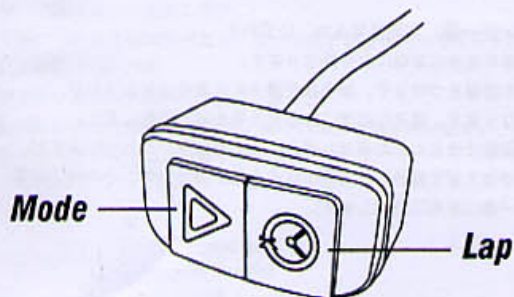
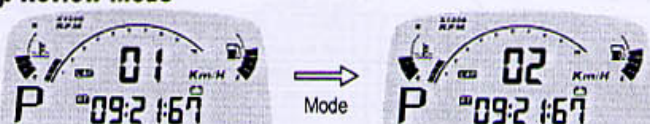
**Normal Mode**



**Lap Mode**



**Lap Review Mode**





## タイヤ外周長一覧表 (マグネットセンサー用)

付属のメーターワイヤーセンサーを使用する場合の設定値は、メーターワイヤー1回転あたりの車両移動距離となります。JIS規格による標準的な設定値は715mmとなります。ホイールなどを変更している場合はメーターワイヤー1回転あたりの移動距離を実測してください。



















1. 下表は次の計算式を使用して計算しています。「直径(インチ)×25.4(mm/インチ)×3.1416=タイヤ外周長(mm)」表中の直径はホイールサイズではなくタイヤを含めた直径であることに注意してください。
2. 車両のタイヤ直径を確認して、下表より外周長を求めてください。

タイヤ直径	外周長(mm)	タイヤ直径	外周長(mm)	タイヤ直径	外周長(mm)
15 inch	1197	19 inch	1516	23 inch	1835
16 inch	1277	20 inch	1596	24 inch	1915
17 inch	1357	21 inch	1676	25 inch	1995
18 inch	1436	22 inch	1756	26 inch	2075

3. 表の数値は概算値です。実際に車両タイヤの外周長をmm単位で測定して設定いただくことをお勧めします。
4. 本機は、速度パルス間の間隔を測定して速度を計算します。表の数値はマグネットセンサーを使用した場合の数値となります。
5. 製品付属のメーターワイヤーセンサーを使用する場合、数値は、「メーターワイヤー1回転あたりの距離」となります。メーターワイヤー軸が360度回転する間に車両がどれだけ進むかをmm単位で実測していただいた値が設定値となります。
6. マグネットセンサーの場合、マグネットの数を増やすことができます。たとえば2個のマグネットをセットした場合には、下表で求めた数値を1/2するか速度パルス分周器を「p002」にセットします。ただし、マグネットの数は2個程度までに留めておくほうが良いでしょう。
7. 本機は、速度パルス分周器(1/2~1/199)を内蔵しています。この機能を利用することで、スピードパルス数が異なる、例えば車両に装備されている純正スピードメーター用センサーなどが利用できる可能性があります。分周機能の数値は、ホイール1回転あたりのパルス数を設定し、スピードメーター機能の数値は、タイヤ外周長をmm単位で設定します。純正スピードセンサーの流用については、その正確なスペックや信号の波形などをよく理解したうえで無ければ故障のリスクを伴います。最低限、車両の整備書を熟読して接続が可能かどうかの検討を行ってください。この機能に関するお問い合わせの際には最低限整備書の内容が必要になりますのでお問い合わせの前に必ずご用意ください。また、センサーのスペックによっては接続ができない場合もございます。この際には別売のマグネットセンサーをご使用ください。

## Clock, RPM, Wheel, Divider, Unit, Maintain, Thermometer, Fuel meter and ODO SET UP

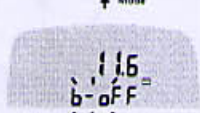
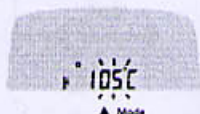
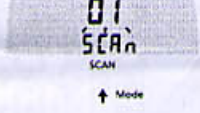
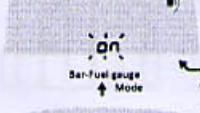
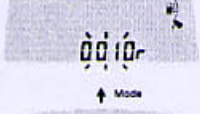
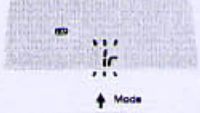
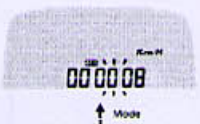
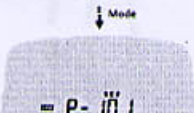
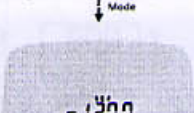
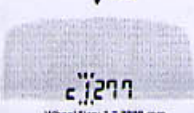
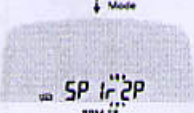
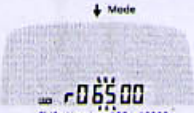
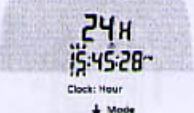
1. セットモードでは、12/24時間制切替・バーグラフコメータースケール・シフトワーニング警告回転数・タコメーターパルス数・タイヤ外周長・速度パルス分周器・スピードメーター小数点以下の表示・使用単位・温度の使用単位・警告温度・メンテナンス間隔・電圧計警告電圧・SCAN機能・フェューエルセンサー抵抗値・ラップタイマーセンサー種別・オドメーター初期値の各設定を変更することが可能です。このモードで75秒間全くボタン操作が無い場合には自動的に通常モードへ戻ります。
2. セットアップモードに入るためにはMODEボタンとRESETボタンを同時に2秒間長押しします。セットアップモードの中では、MODEボタンを押す度に設定する項目が移動します。設定される項目は画面上で点滅しています。この状態でRESETボタンを押すと項目の数字が増えたり、単位が変更されたりします。どの画面からでもMODEボタンの2秒間長押しで通常モードへ戻ります。
3. セットアップモードは「12/24H」および「XX:XX-XX」画面から始まります。12/24時間制を選択して、時計を「時」「分」と順番に設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
4. 次にタコメーターフルスケール切替え画面になります。RESETボタンを押すたびにタコメーターのフルスケールが10,000rpm/20,000rpmに切り替わります。車両のエンジン特性に合わせて設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
5. 次に「RPM rXXXX0」画面になります。出荷時は「RPM r06500」となっています。シフトワーニング回転数をMODEボタンで1ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
6. 次に「RPM SP 1r1P」画面になります。初期設定値は「1r1P」です。設定には1r1P、2r1P、3r1P、1r2P、1r3Pおよび1r4Pの6種類があります。数値の「r」は回転、「P」は点火信号を意味します。例えば、エンジン2回転あたり1回の点火信号が発生する車両に装着する場合の設定値は「2r1P」となります。RESETボタンを押すたびに設定値が順番に変わります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
7. 次に「SPD eXXXX」画面になります。タイヤ外周長を設定します。4つの数字は外周長をmmで表しています。MODEボタンで1ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。

8. 次に「SPD P-001」画面になります。スピードパルス分周器の分周比を設定します。設定可能な数値は001~199です。付属センサーやマグネットセンサーを使用するときには「001」に設定してください。MODEボタンで1ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
9. 次に単位設定画面になります。RESETボタンを押すたびにKm/hとMPHが切り替わります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
10. 次に「SPD 99.9km/h on」画面になります。スピードメーター小数点以下の表示/非表示の設定をします。RESETボタンを押すたびに「SPD 99.9km/h on」と「SPD 99.9km/h off」が交互に切り替わります。「SPD 99.9km/h off」に設定した場合、スピードメーターの小数点以下は表示されません。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
11. 次に「とRT」画面になります。RESETボタンを押すたびに「とRT」と「とTRIP」および「とOFF」に切り替わります。RTは時間でメンテナンス間隔を設定する場合、TRIPは走行距離でメンテナンス間隔を設定する場合です。OFFはこの機能を使用しない設定です。RTとTRIPを選んだ場合、MODEボタンを押すとそれぞれの数値を設定することが出来ます。工場出荷時にはRTは100時間、TRIPには1000kmが設定されています。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
12. 次に「 b-on」画面になります。RESETボタンで数値を設定します。ここで設定した電圧より車両電圧が下がるとバッテリー警告が出ます。MODEボタンを押すと表示が「 b-off」になります。RESETボタンで数値を設定します。ここで設定した電圧よりも車両電圧が上がるとバッテリー警告が消えます。設定範囲は11.0V~14.9Vです。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
13. 次に温度計1設定画面になります。RESETボタンを押すたびに「とOFF」に切り替わります。OFFにセットすると温度計機能を使用しない設定となります。再び「」または「」にセットすると温度計機能を使用することが出来ます。完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
14. 次に「 XXX」と13.で選んだ温度単位を表示します。13.でOFFを選択した場合、この項目は表示されません。警告温度を順番に設定します。MODEボタンで1ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
15. \*\*次に温度計2設定画面になります。RESETボタンを押すたびに「とOFF」に切り替わります。OFFにセットすると温度計機能を使用しない設定となります。再び「」または「」にセットすると温度計機能を使用することが出来ます。完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
16. \*\*次に「 XXX」と15.で選んだ温度単位を表示します。15.でOFFを選択した場合、この項目は表示されません。警告温度を順番に設定します。MODEボタンで1ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
17. 次に「SCAN」画面となります。RESETボタンを押すたびに「on」と「off」が切り替わります。Onの時には、メーター2行目の数値が5秒ごと順番に機能を表します。
18. 次に「とon」「とoff」「とrES」が切り替わります。「とon」を選んだ場合、MODEボタンを押すと燃料計満タン表示と「XXXXr」表示が出ます。RESETボタンで満タン時のフェューエルセンサー抵抗値を入力してMODEボタンを押します。続いて燃料計0表示と「XXXXr」表示が出ます。RESETボタンで燃料0時のフェューエルセンサー抵抗値を入力します。完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。OFFにセットすると燃料計を表示しません。rESにセットした場合、入力線がアースされた時に燃料計のシンボルを表示する動作となります。
19. \*\*次にラップタイマーセンサータイプ設定画面になります。RESETボタンを押すたびに1r、EF1、EF2、EF3に切り替わります。別売の赤外線センサーを使用する場合には1rに、サーキット埋設マグネットセンサー使用時には、サーキットの磁石埋設数に応じてEF1~EF3より選択します。EF1はサーキットに埋設されている磁石の数が1個の場合、EF2は2個の場合、EF3は3個の場合の設定です。完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
20. 次に「ODO&00000X km」画面になります。以前使用していたメーターの距離を引き継ぐためにオドメーターの初期値を設定できます。MODEボタンで1ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。なお、オドメーターがテスト走行などにより30kmをこえるか、設定で30kmを超える初期値を設定した場合、この画面はセットアップモードから無くなり再設定できなくなります。オドメーターはリセットできませんので、初期値の設定は間違いないよう慎重に行ってください。完了したらMODEボタンを押すと3.の画面に移動します。

2秒長押し

MODEボタン、RESETボタン、MODE Reset、MODE + RESET 2秒長押し





Adjustable when ODO = 30KM

